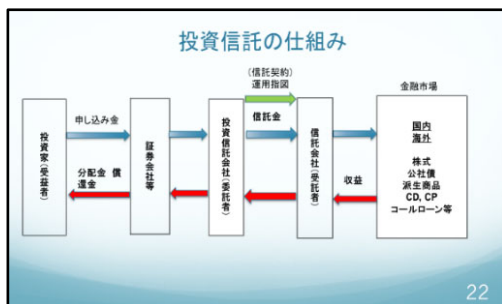


2022年度文系チャレンジ講座（第1回）を実施しました

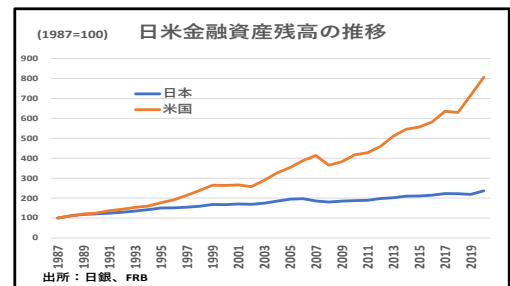
新型コロナウイルス感染症の対策として、本チャレンジ講座はオンライン授業（Zoom 配信）で実施することになりました。

5月18日（水）に経済学部の小笠原 悟先生を講師に迎え、「お金について学ぼう～お金は使うもの？貯めるもの？」というテーマで、今年度の初回となる文系チャレンジ講座第1回を実施しました。遠隔配信した安心院、国東、別府翔青、大分雄城台、大分西、大分舞鶴、大分豊府、芸術緑丘、大分、臼杵、津久見、三重総合、由布、中津北、玖珠美山の15校272名が受講しました。



今年から成人年齢が18歳に引き下げられ、「老後2000万円問題」に直面している現在、「金融」や「投資」について学ぶ必要がある、という話から講義が始まりました。まず、私達が最低限、身に付けるべき金融リテラシーとして、家計管理やライフプラン、金融知識や適切な金融商品の選択などがあり、続いて、お金の役割や金融の仕組みを、図表を用いて説明されました。

次に、保有資産を増やすために、投資をすることが大事だが、売買のタイミングが難しい株より簡単にできる投資としての「投資信託」に言及されました。「卵を一つのかごに入れるな！」という基本理念に基づき、資産の種類、国と地域、銘柄において「分散投資」がより安定的に資産を増やすことができると説明されました。後半には、日本は欧米と比較し金



融資産全体に占める預貯金の割合が非常に高く、これでは十分な資産形成をすることが難しいので、「貯蓄」から「投資」へ転換していく必要があると説明されました。このことは単に、個人の資産を増やすという目的のみならず、社会貢献につながる投資でもある為、推奨されるべき経済行動である、という話で講義は終了しました。

講義後のアンケート調査は、「総合的に判断して授業がよかった」(93%「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」

の合計。以下同じ)、「授業内容は興味あるものであった」(89%)、「受講生は授業に意欲的に取り組んでいた」(92%)という結果でした。受講生からは「高校の授業では学ぶことのできない金融に関するさまざまな情報を得ることができて勉強になった。」「投資信託のメリット・デメリットを簡潔にまとめていて理解できた。自分の進路選択に活かせる情報もあったので有益な時間を過ごすことができた。」等の感想が寄せられました。

